

●かけ替えのない役柄で実相寺昭雄監督と「ミミック」続ける!!

—演技指導はないんですか？

「ええ、ずっとなかったですね。

あそこへ座って下さいと、ギロチ

ンの模型があって、田沼意次の父

親役は岡田英次さんで、新しい

物が好きで集めた模型を見ている

シーン。監督から「堀内さん、1

センチ右に……いや行きすぎ、5

ミリ戻して下さい」、ええっ!？」。

今映画を見直すと、位置が微妙で

息が止まっちゃって呼吸してない

(笑)。まるでレントゲン撮影で、

位置に入らなきゃって集中してる。

あと、僕は田沼意知なので田村亮

さんに殿中で長袴はいてて斬りか

かられるシーンがあって、長袴な

んてはいたことないし、逃げるこ

ころで周りの家臣が僕の長袴を踏

んで、ボタンと倒れる。東映時

代の東千代之介さんみたいにかっ

こよくシュシュッと行きたいんだ

けど、引っくり返ってメチャク

チャ(笑)。実相寺監督は、「いや、

結構です」と撮り直してくれない。

そこばかり憶えますよ」

—映像の中の人物の構図は、本

当に多様な監督でしたね。

実相寺作品に出た時は画角がどれ

ぐらいかというのは確認もしたし、

さりげなく中堀さんにとこまで

映っているのかを聞いて、ここか

らここまでと(自分の映るフレー

ムを)意識していました。ここに

置き物があるならあまりかぶらな

い位置にしようとか、自分なりに

演出を入れて演じてると、実相寺

監督が「堀内さん、違う、違う。

まるで逆でこちだよ」と言われ

て、その時に「やった、監督の意

見を引きだしたぞ」とうれしい。

そこで良いですよ」と言われる

と、内心で「やった、イメージ通

り」と。一カット、一カットが俳

優なのに自分で映像を作る現場

でもあったんです」

—その後、「東京幻夢」はハイ

ビジョンのデモンストレーション

作品で、セリフがない主役です。

撮影はどうでしたか？

「1986年に『東京幻夢』に呼

んでもらって、監督が書いた脚本

を読んだ時、これって写真館の男

が実相寺さん本人だなと思ったん

です。実相寺さんをじっと観察し

て、物へのこだわり方、カメラの

一台、一台の持ち方、食べる時の

べていく、ミニチュアを作る時の

筆のシュツとした色の入れ方、そ

ういう匂いを出そうとしました。

実相寺昭雄だったので、カメラを

シヨルダーにかけたんです」

—時計や写真館の内装と池谷仙

克さんの美術がこってましたね。

「いや、よかったです。せいたくで

したね。うれしかった！ 小品と

はいえ、主役で自分が存在するた

めのセットを皆が作って下さって、

牛ちゃん(牛場賢二)照明監督)が

すこい照明をやってくれて、僕の

中ではとても大事な作品です」

—最後に写真館の男は砕け散る

ように爆発する。幻影ならではの

映像ですが、撮影は見ましたか？

「もちろん、自分が凍りついたよ

うに動きを止めて、発泡スチロー

ルの自分に取り替えて、一発勝負

でバラバラにふきとぶカットで、

偶然ひじから手首までが残ってこ

ろがっていく。何か意味ありげで、

そんな撮影したこともないし、楽

しかったですね」

—続けて日本テレビのTVMー

ビー「青い沼の女」では、東宝ビ

ルトのステージ内に沼や林、家の

全てを作って、一歩もスタジオを

「僕は中山仁さんと山本陽子さん

の家の執事で、あの中ではマオ:カ

ラーの服を着てるんですが、昼間

のシーンで田村亮さんが寝ている

ところを起こすシーンで、ちよつ

と服を変えたくて、実相寺さんが

当時仲間用で作っていた監督の

「夢」という字が書かれたTシャ

ツを前日もらっていて、「これ着

て出ていいですか?」と聞いたら、

「おもしろいね」と。それで夢心

地の田村亮さんを起こしに行つて

起きない、それで足でチョンチョ

ン突ついで、実相寺さんはそうい

うちよつとしたおふざけが好きで、

「あっ死んでる」とつぶやいて

帰っていく。寺田農さんもわざと

つまづいたり、よくやるんですよ。

『青い沼の女』の冒頭でも、どしゃ

降りの雨の中、顔も見えない郵便

配達人が手紙を届けにくる。それ

が寺田農さんで、誰も見て判ら

ないですよ。でもそんなチョイ役

でも来ちゃう。その時に実相寺さ

んと寺田さんの関係がすごいうら

やましかった。お互いに好きなん

だなあって……。そんな関係の世

界に少しでも入って行ける自分

実相寺監督とのつきあいはそれで

瞬のれんを上げた時に見えるかど

うか、台本にもない役だったんだ

けど、『堀内さん、ちよつとやつ

てくれないかな」と実相寺さんに

言われて、なんかそういうので呼

ばれるのって無茶苦茶うれしいん

ですよ。主役とか良い役じゃなく

て、とにかくちよつといてほしい。

でもそのちよつとというのは、他

の人じゃ嫌で僕じゃないと嫌だ、

寺田じゃなきゃ嫌だということ

でしょう。これって無茶苦茶うれ

いですよ。これは実相寺さんの言

葉じゃないですけど、デビュー以

来良い役にめぐまれて、映画『眠

狂四郎』の池広一夫監督の次の作

品が一シーンだけのバーテンの役

で、「これはやめにしましょう」

とマネージャーが言つて、そうだ

なとNGにしたら、池広監督から

電話が来て、「正美、君にとつて

はそんな役かも知れないが、僕に

とつては主役だろうがバーテン一

人だろつが自分の思い通りの人間

にやつてくれなきゃ完璧じゃない

んだ。自分が脚本を読んだ時バー

テンは正美だと思った。他の人に

は変えられないんだ」と言うんで

す。ガーンとなって、俳優は役の

大き

ささ

じや

ない

んだ

と実

感し

た。

それ

を実

作の

中で

一番

教え

てく

れ

たの

が実

相寺

さん

なん

です!!

—

—

—

—

—

—

—